

新たな連携へ

他制度産学官連携人材との協働

他制度人材との連携による研究会

キーワード：産学官連携人材・地域活性化・知的クラスター・研究会

本事例の関係者

岐阜大学教員

知的クラスター科学技術コーディネータ

文部科学省産学官連携コーディネータ

知的クラスター成果の更なる展開に向けて

【要約】

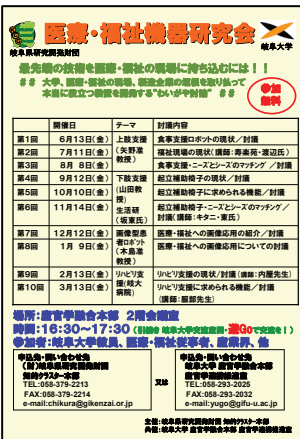
コーディネーターは、「岐阜・大垣地域知的クラスター」が平成21年3月で終了するに当たり、「医療・福祉機器」の事業化を促進させるために、知的クラスター科学技術コーディネータから相談を受けて、研究会を開催することとした。研究会は毎月開催し、医療・福祉関係者をはじめいろいろな方々の参加があり、医療・福祉の現場の意見を多数いただくことができた。この研究会で得られた意見を参考に「医療・福祉機器」の事業化に向けて更に前進することを期待している。

【きっかけ】

「岐阜・大垣地域知的クラスター」が平成21年3月に終了するにあたり、「医療・福祉機器」の事業化を促進させる方策につき、コーディネーターに知的クラスター科学技術コーディネータから相談が持ち込まれたことが発端。

【段取り・ポイント】

知的クラスター科学技術コーディネータとで、研究会のテーマ、内容、講師、開催日、場所等について表1のように企画した。また、広報としても以下のことを実施した。①ポスター・パンフレットの作成、ならびに配布。②岐阜大学産官学融合本部のホームページに案内を掲載。③岐阜大学恒例の交流会「遊GO」での紹介。④関係者へのダイレクトメール。



医療・福祉機器研究会

最先端の技術と医療・福祉の現場に携わらばは！！
 まずは、大学・産官・福祉の現場、関係者の意見を聞きあわせて
 本館に集立つ動議を踏査する「わが学討論」を

開催日	テーマ	討議内容
第1回 6月13日(金)	上肢支援	食事支援ロボットの見状/討議
第2回 7月11日(金)	失物探	福祉機器の現状(講師:青木亮・渡辺氏)
第3回 8月9日(金)	聴覚	食事支援・コースレスのロボット/討議
第4回 9月12日(金)	下肢支援	起立補助椅子の理状/討議
第5回 10月10日(金)	山田教授	起立補助椅子に求められる機能/討議
第6回 11月14日(金)	発達障害	討議(講師:キタニ・東氏)
第7回 12月12日(金)	画像型患者	医療・福祉への画像型患者の紹介/討議
第8回 1月9日(金)	等身型ロボット	医療・福祉への画像型患者についての討議
第9回 2月13日(金)	リハビリ支援	リハビリ支援の理状/討議(講師:内藤先生)
第10回 3月13日(金)	講師:大橋氏	リハビリ支援に求められる機能/討議(講師:大橋先生)

場所:産官学融合本部 2階会議室
 時間:16:30~17:30 (討論は岐阜大学交流会前:遊GOで実施を！)
 参加者:岐阜大学教員、産官・福祉関係者、医療関係者、産官学融合本部
 関係者への案内
 問い合わせ先
 産官学融合本部
 関係者への案内
 TEL:058-379-2213
 FAX:058-379-2214
 e-mail:chikura@honzai.or.jp

案内パンフレット

平成20年6月
より毎月開催
(9ヶ月間)

参加者延べ
208名
平均参加者
23名

テーマ	食事支援ロボット、起立補助椅子、画像型患者ロボット など
内容	講師による講演、ならびにロボット等機器の見学・実操作体験
講師	Y教授、K准教授、Y准教授
開催日時	毎月第2金曜日 16:30~17:30 (岐阜大学恒例交流会「遊GO」の前に、プレ遊GOとして開催)
開催場所	岐阜大学産官学融合本部 会議室

表1 研究会企画概要

【成果・結果や活動後の変化】

研究会は、平成20年6月より開始し、毎月開催できた。医療・福祉機器事業者、医療関係者、福祉関係者、介護支援専門員、リハビリ関係者など多岐にわたった職種の方々の参加が得られ、平均23名と予想以上の盛況であった。研究会を大学で開催したため、必要に応じて研究室の見学も実施でき、参加者の理解を深めるのに大いに役立った上に、参加者から実用化のための医療・福祉機器の改良に役立つ多くの貴重な情報が得られたことも意義を高めた。今後の機器の改良に役立てればと期待する。今後、この研究会を発展的に展開させ、医療・福祉機器の実用化を目指すと共に、この技術を活用した一般産業機器への応用も視野に入れていく。

成功の事例

共同作業、同時開催が功を奏した

●共同作業による相乗効果

知的クラスター・科学技術コーディネータと共同で研究会立ち上げの企画を進めたことにより短期間の準備で早い時期に研究会をスタートさせることができた。

知的クラスター関係者、大学関係者の協力も得られ、毎月開催した研究会の運営もスムーズに、かつ効率的に展開することができた。コーディネーターの共同作業による相乗効果といえる。

●定着した恒例のイベントとの同時開催

岐阜大学で5年間の歴史を持つ交流会“遊GO”の直前にこの研究会を開催する企画により、参加者を増やすことができた。この研究会を16時30分から17時30分まで開催し、引き続き17時30分から交流会“遊GO”を開催する二つのイベントの連結活動、更には定期的で開催したことが集客に役立った。

●現場の生の声が聞けた

多くの医療・福祉関係者に参加いただいたが、特に医療・福祉の現場の方々の生の声が聞けたことが非常に良かった。実践的な生々しい意見が多く集まり、今後の医療・福祉機器の改良に大いに役立つものと考えている。これらの意見が実用化に繋がることを期待している。

新たな 連携へ



研究会の様子

失敗の事例

次のステップも考慮すべきであった

●事業化へのプッシュ不足

今回の研究会は「岐阜・大垣地域知的クラスター」の研究成果を一般公開形式にして、出来る限り多くの人、特にユーザー側の意見を反映させ、実用化を促進させることを狙った点ではかなりの成果が得られたが、事業化議論には至らなかった。

一時間の研究会では事業化への意見交換を行う時間も少なかったことも影響していると考えられる。関心のある企業を中心に事業化を議論する分科会等を設けても良かったと考える。これらの議論を通して、事業化への問題点を浮き彫りにしたかった。

●岐阜・大垣地域以外にも、他の業界にも

岐阜・大垣地域を中心にこの研究会を案内してきたが、この地域以外にも積極的に広報し、他の業種にもこの技術を紹介して、他業界への応用も考慮した活動をする必要があった。必要によっては大学以外の場所で研究会を開催しても良かったと考える。

成功と失敗の 分かれ道

仲間づくりが大切である。
いかにして仲間を増やしていくか。

産学官連携の新たな展開に向けた提言

地域活性化に貢献するには

地域経済の活性化は国の政策として重要な課題となっている。そのために、産学官連携活動をいかに効果的に活用して実現に向けて進めるかが重要である。

我々文部科学省産学官連携コーディネーターは大学に軸足を置いた毎日の活動をベースに地域の活性化に活かせる研究シーズを探索し、地域経済への活性化に向けて日夜努力しているが、実現が容易でなく苦戦が続いている。

特に事業化を目指すには産学連携が要であり、産業界の役目が非常に大きいと考える。そのためには、受け皿となる強力な産業界のキー企業、もしくはキーマンを探し求めることが肝要である。

どんなに研究シーズが優れていても、強い産業界の受け皿がないと地域活性化の実現は難しいと言わざるを得ない。いろいろなネットワークを使って受け皿を探し求めていきたい。

☆コーディネーターの一言

コーディネーターには目標意識を持ち、タイムリー、かつ迅速な舵取り（方向付け）が求められている。